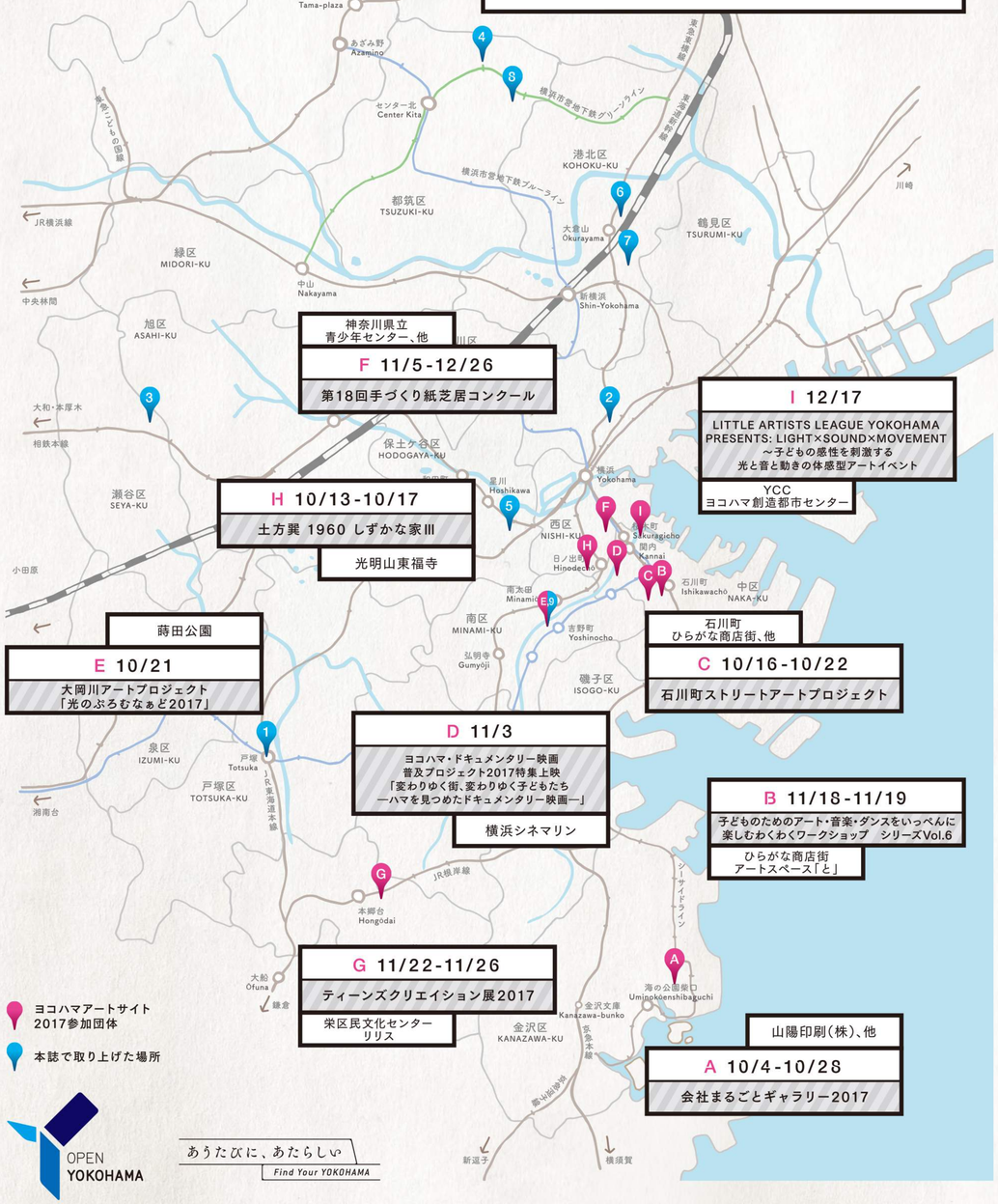
YOKOHAMA ARTSITE

ヨコハマアートサイト　おでかけMAP

横浜市の地域文化をサポートするヨコハマアートサイト2017参加団体による
10月～12月のイベントをピックアップ。ぜひ、おでかけの予定に加えてほしいものばかりです。

横浜市の地域文化を支援するための「ヨコハマアートサイト」助成金

ヨコハマアートサイト選考委員会による選考を経て、
今年度は27の採択団体が決定しました。
各団体の活動の詳細については、ウェブサイトを御覧ください。



神奈川県立青少年センター、他
F 11/5-12/26
第18回手づくり紙芝居コンクール

I 12/17
LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA
PRESENTS: LIGHT×SOUND×MOVEMENT
～子どもの感性を刺激する
光と音と動きの体感型アートイベント
YCC
ヨコハマ創造都市センター

H 10/13-10/17
土方巽 1960 しずかな家Ⅲ
光明山東福寺

蒔田公園
E 10/21
大岡川アートプロジェクト
「光のぷろむなぁど2017」

石川町
ひらがな商店街、他
C 10/16-10/22
石川町ストリートアートプロジェクト

D 11/3
ヨコハマ・ドキュメンタリー映画
普及プロジェクト2017特集上映
「変わりゆく街、変わりゆく子どもたち
―ハマを見つめたドキュメンタリー映画―」
横浜シネマリン

B 11/18-11/19
子どものためのアート・音楽・ダンスをいっぺんに
楽しむわくわくワークショップ　シリーズVol.6
ひらがな商店街
アートスペース「と」

G 11/22-11/26
ティーンズクリエイション展2017
栄区民文化センター
リリス

山陽印刷(株)、他
A 10/4-10/28
会社まるごとギャラリー2017

OPEN YOKOHAMA
あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

最新情報・詳細はこちら　http://y-artsite.org/

ヨコハマアートサイト

ヨコハマアートサイト

横浜の地域文化を考える・応援する

瀬谷区・影絵グループ「花いちもんめ」

2017 Vol. 013

「特集　民話を描く」

戸塚区・さくらプラザオープンデー2017「真夏のこども探検隊」紙芝居文化推進協議会「よってって！ないしょの紙しばい小屋」

特集 民話を描く

むかしむかし
このまちでは
こんなことが
あったんだってさ

1

紙芝居の舞台に見る私たちのまちの昔話

ヨコハマアートサイト2017採択団体のひとつである「紙芝居文化推進協議会」。紙芝居制作講座や、実演の場を通して手作り紙芝居の魅力を伝えてきた。昨年も実施した手作り紙芝居コンクールには、実に200作以上もの作品が集結。その中には民話を元にした紙芝居も少なくない。

「今、このまちに生きている私たちだからこそ描ける、私たちのまちの姿があります」。そう語るのは、メンバーの片岡直子さん（P.1写真）、畠山宣子さん、森内直美さんだ。

過去には、民話を元にした紙芝居制作講座を実施。まず、まちの民話や歴史を掘り起こすところから始め、どうしたら時代や年代を越えたみんなで楽しめる紙芝居にできるのか、参加者は試行錯誤しながら制作を進めた。

磯子の昔話をもとにした『おどりばたけ』を制作した際も、人物の髪型や服装、畑のあった場所など調べることは山のようにあった。写真に残っていない風景を絵にするのは骨が折れるが、実際にそのまちへ行き、古地図を見ながら今のまちを歩くにつれ、まちに一層の愛着がわいてくる。

「土地に伝わる民話は、もともとお年寄りから孫へ……と声で伝えられたもの。だから、横浜のように急速に都市化が進んだ場所では、その担い手が途切れてしまいます。また、言葉だけでは伝わりづらいところは、絵と併せて、よりわかりやすくデフォルメを加えることもあります。紙芝居はひとつのメディアだと思うんです」。

紙芝居は一人で楽しむものではなく、人が人へ何かを「伝える」ためのツールだ。だからこそ、人から人へと伝わることで残ってきた民話とは親和性が高いのだろう。

2 まちに潜む民話の影を辿る

誰しもが一度は聞いたことのある「浦島太郎伝説」。浦島町、亀住町といった町名を持つ神奈川区には、「うらしま散歩」というツアーがあることをご存知だろうか。浦島太郎ゆかりの場所をガイド付きで紹介するのが、「かながわ浦島太郎PJ(プロジェクト)」の皆さんだ。

「うらしま散歩では、まちに残る浦島伝説をご案内するほか、神奈川区のまちについて触れられるスポットを紹介しています。市外からの参加者も多いです」。そう語るのは、長年ガイドを務める塚田寛さんと、西海土(さいかち)弘行さんのお二人である。

約1300年前から伝わる浦島伝説だが、神奈川区では乙姫が迎えに来るというハッピーエンドで終わっている。実際に、神奈川区には、浦島が持ち帰った観世音菩薩像がまつられた慶運寺や、足を洗ったとされる足洗(あしあらい)の井戸など、浦島伝説を示すものが数多く残っている。

そうして浦島伝説を追ううちに、宿場町「神奈川宿」として栄えた、かつてのまちの姿が垣間見える。葛飾北斎の描いた「神奈川沖浪裏」は有名だが、あの海を浦島太郎が亀に乗って渡ったのだろうか。

3 かつてそのまちで暮らした普通の人

影絵グループ「花いちもんめ」は2008年から活動を始めた、民話をもとにした影絵を作る集団だ。会員は全6名。もともとは瀬谷区が行った「民話アートスクール」の受講者が集まり発足。現代影絵の専門劇団「劇団かかし座」から指導を受け、初心者ながら本格的な影絵を制作した。

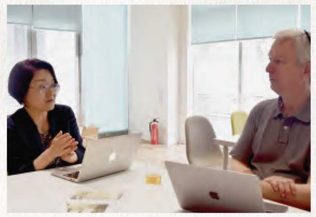
「影絵の人形や道具も自分たちで制作しています。今日練習している『たぬきの恩返し』は、かつての瀬谷・二ツ橋村が舞台のお話です」。

そう話すのは、代表の鈴木京子さん。普段は保育園や、せやまる福祉まつり、小学校のコミュニティ・スクール、高齢者サロンなどで影絵を披露している。

「たぬきの恩返し」は、お百姓さんの弥治右衛門(やじえもん)と権兵衛狸(ごんべえだぬき)の友情を描いた物語。山で仲間はずれのたぬきが、お百姓さんになつく様子が描かれている。

「民話の素朴なストーリーと影絵のシンプルな表現はとても相性がいいと思います。このまちで生活をしていた普通の人が描かれている。そこが民話のいいところだと思うんです」。

影絵が映るスクリーンのなかに、二ツ橋村で暮らす人々が生き生きと描かれている。



4 残されたおはなしからコミュニティを考える

学校や家庭での問題を抱えた青少年の支援活動を行う「アーモンドコミュニティネットワーク」。2016年は、ひきこもりを経験した詩人とアニメ作家、グリム童話に着想を得て活動するイタリアのアーティスト・GRIMM TWINSによる「アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト」として、詩を元にしたアニメーションを作成。制作過程や上映を通して、地域住民や地元アーティストとの交流を生み出した。

今年度のテーマは「民話」。詩人自らが足を使って横浜北部の民話を収集した。自分の興味がつながれば、人はドアを開けて外へ出ていく。

楽しいばかりではないグリム童話の世界には、人間の本質が見え隠れする。「日本の民話のなかにも、どの時代にも通じるような人々の本質が隠されているのかもしれないと考えたんです」。そう語るのは、理事長の水谷裕子さんとエスキルドセン・ロバートさん。語り継がれたおはなしを通して、そこに暮らす人々の心の奥を見つめてみる。そのとき地域はどんな像を結ぶのだろう。

P.3左　浦島太郎山車
資料提供：かながわ浦島太郎PJ（神奈川区）
http://www.geocities.jp/urashimataro_pj/
P.3中　瀬谷区・影絵グループ花いちもんめ
P.3右　都筑区・アーモンドコミュニティネットワーク
https://almondcommunitynetwork.com/

これまでのアートサイトラウンジ

交流と研修の場 アートサイトラウンジ

アートと地域の関わりについて考える・交流する場としての「アートサイトラウンジ」。
地域文化に関心のある方ならどなたでもご参加いただけます。
毎回異なるテーマを設け、市内各地を巡るようにして開催してきました。
また、交流の場としてもジャンルを越えたコラボレーションの機会につながっています。
アートプロジェクトや、地域での文化活動の背景を共有し、その意義や可能性を探ることで、地域文化の未来を考えます。
今後の開催についてはウェブサイトをご覧ください。

vol.1 アート森フォーラム
GROUP創造と森の声「横浜の森美術展7」の参加アーティストが見る海外のアート事情。

vol.2 アートでであう地域の多文化
「横浜下町パラダイスまつり2014」の活動紹介と日常生活の中にある多文化との繋がり。

vol.3 風土とアート
古くから受け継がれる文化や、新たに生まれたアートから見えてくる地域の風土。

vol.4 ダンス教育ラボ
アーティストと学校と地域で考えるダンス教育の可能性。

vol.5 参加するアート
アートプロジェクトにおける市民参加の魅力や課題。

vol.6 「白根通り作曲プロジェクト」キックオフプログラムーヒルサイドから見るヨコハマアートサイト関連企画紹介・旭区版ー
「白根通り作曲プロジェクト」を中心に、旭区でのアートな取組を紹介。

vol.7 遺跡公園、都筑民家園とコミュニティーアート
一般市民を巻き込み地域に根差したアートのこれからの方向性。

vol.8 歩くことでまちなみがみえてくる
まちあるき＝土地を歩くという体験から生まれる文化。

vol.9 居場所、まちのなかで
さまざまなバックグラウンドの人びとが自由に行き来する「居場所」の今後。

vol.10 海外における障害とアートの今を学ぶ
諸外国における「障害とアート」の現状。

vol.11 子どもがアートと育つ場所
子どもが育つ過程でのアートや体験活動の重要性

vol.12 ものづくり～工場とアートワークの関わり～
アーティストネットワーク+コンパスの活動経緯から見る工場とアートワークのこれから

vol.13 アーツカウンシルと地域文化
芸術文化を支えるアーツカウンシルと地域文化の関わり

地域文化の風景

5 宿場町の記憶が残るまちで生活と文化が交差する

西村雅典さん　錦澤俊男さん
（岩間市民プラザ）

―西村　保土ケ谷区は、橘樹（たちばな）神社のお神楽などが有名ですが、それだけでなく文化活動も盛んですね。元々は東海道の宿場町でしたから、商店街同士の結びつきも強いんですよ。宿場まつりという住民手作りの祭りは規模も大きく、しっかりとまちに根付いています。代々地元で育ってきた人が多く、それでいて閉じていない。気さくなんです。私は保土ケ谷出身ではありませんが、ここは応援したくなる独特の魅力があります。

―錦澤　宿場町としてのにぎわいはもちろん、生糸貿易で栄えた時代には、絹の道が通っており、現在は天王町シルクロード商店街として名前が残っています。ビジネスとアートという意味では、今はＹＢＰ（横浜ビジネスパーク）がありますね。

―西村　野外に展示された彫刻作品も風景になじんでいて、あのあたりは犬を散歩させている人も多いんですよ。文化的なものを自然と生活に取り込むのが上手なのかもしれません。

かたびら・スペース・しばた。

左：西村さん　右：錦澤さん

撮影協力：宿場そば 桑名屋

―錦澤　文化と言えば、歴史的建造物が多いというのも特徴ですね。「魅力発見シリーズ」として銭湯やお寺、教会など区内の歴史のある建物でコンサートや寄席といったイベントを行うなど、保土ケ谷の歴史スポットを紹介しています。面白い場所がたくさんあるので、次はどこでどんなことをしようかと想像を巡らせるのが楽しいですね。

―西村　まちの中にも、面白いことを仕掛けていこうとしている方々が多い印象があります。自分たちでまちを盛り上げようという「保土ケ谷愛」にあふれている。江戸時代に始まったといわれる月に一度の朝市「神戸（じんど）市」が近年復活したんですが、地場野菜や宿場名物を扱っていて地元の方々にも人気ですね。地元農家でつくった野菜で作る「ほどがや弁当」も目玉商品。岩間市民プラザでもケータリングでよくお世話になっています。

―錦澤　区制80周年をきっかけに保土ケ谷のジャガイモで作った「ほどじゃが焼酎」も名物ですね。保土ケ谷駅西口商店街では、昨年レンタルスペース「かたびら・スペース・しばた。」がオープンし、音楽ライブや落語など発表や交流の場が育まれています。夜はバータイムを設けることで、文化活動をする人の集う場になっています。まちに愛情をもつ方々のなかでも、落語会を開催している「宿場そば　桑名屋」のご店主はとても活動的です。まち歩きのガイドボランティアをなさっているんですが、まさに「保土ケ谷愛」の人。お店には保土ケ谷宿の模型や資料が多く並んでいます。

―西村　今後は私たちも、より地域に根差し、それぞれの拠点とタッグを組むことで、まちを盛り上げるお手伝いをしていきたいと思っています。

事務局うろうろ日記

ヨコハマアートサイト事務局は、今日も、横浜市内のあっちこっちへうろうろしています。

6 7月14日（金）

大倉山駅すぐの「ギャラリーかれん」で「みどりの風展2017～かれんにアトリエ・パンパキがやってきた！～」を鑑賞。アトリエ・パンパキとは、川崎市にある高津養護学校の一室から生まれたアートグループ。かれんのメンバーとアトリエ・パンパキの作品はとてもにぎやかで、見ているだけで明るい気持ちになる。

7 7月15日（土）

この日は港北図書館前の菊名北町町内会盆踊り大会に行く。お昼までは菊名子どもまつりというイベントが行われていたこともあり、会場には浴衣姿の子どもたちがひしめき合う。会場を盛り上げる菊名音頭は、なんと今夜が初お披露目。ご当地ヒーロー「横濱見聞伝スター☆ジャン」も登場して大盛り上がり。

8 7月22日（土）

都筑区・南山田の虫送りを見に行く。こちらは1976年に復活し、横浜市指定無形民俗文化財にもなっている地域の伝統行事だ。18時ごろに山田神社を出発し、200本の松明（たいまつ）を持った子どもたちが町内を練り歩く。普段のまちとは違う幻想的な光景は、まるで不思議な世界に迷い込んだかのよう。

9 7月23日（日）

南区で開催された南まつりに、大岡川アートプロジェクトが参加しているということで、見学に行く。「～カップで作ろう　LEDバースディキャンドル～」のワークショップは昨日に引き続き大賑わい。子どもたちは思い思いのキャンドルを制作していた。今から冬のイルミネーションイベントが楽しみだ。

ヨコハマアートサイトとは

横浜市地域文化サポート事業。地域課題の解決につなげる文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援する事業です。

事務局・お問い合わせ

ヨコハマアートサイト事務局
（ＳＴスポット横浜、横浜市文化観光局、横浜市芸術文化振興財団）
〒220-0004 横浜市西区北幸
1-11-15 横浜ＳＴビル 208
（認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜
地域連携事業部 内）
TEL：045-325-0410
FAX：045-325-0414
WEB: http://y-artsite.org
MAIL:office@y-artsite.org

@Y_Artsite
ヨコハマアートサイト

ヨコハマアートサイトに関することを中心に、横浜市内のさまざまな地域文化活動について発信します。

季刊ヨコハマアートサイト Vol.013

発行	ヨコハマアートサイト事務局
編集	認定ＮＰＯ法人 ＳＴスポット横浜
テキスト	小川智紀　池田友実 加納美海
デザイン	相澤事務所
撮影	福井裕子
印刷・製本	株式会社 三島印刷
発行日	2017年9月30日

季刊誌についてのご意見・ご感想もお待ちしています。